

# 「いつか晴れた日に」 贈り物に人生が見える

贈り物。それは、人から人に伝  
える、言葉にならない思い。いつ  
も、人は相手に思いを伝えたくて  
プレゼントをする。

さまざまなプレゼントの中でも、  
ピアノが贈られるなんて、そうあ  
ることではない。それは、音楽を  
奏でることが出来る人にふさわし  
い、言葉以上の心の安らぎが欲し  
いという思いが込められているの  
だろう。

四人姉妹を描いた『若草物語』  
(49年)では、音楽を愛する引つ込  
み思案の末っ子のベス(マーガレ  
ット・オブライエン)は、隣に住  
むローリーの祖父に、ピアノを贈  
られた。ベスは、「毎日ピアノを弾  
きにおいで」とローリーの祖父に言  
われ、そのお札に手作りのスリッ  
パを心を込めて作って贈り、その  
お返しにと、ピアノが贈られたの  
だ。それは亡くなった孫娘の物だ  
った。ローリーの祖父からしてみ  
れば、自分の孫娘の思いを重ねた  
のかも知れない。

友達の誕生日に、ピアノが贈ら  
れたのは『ボーイズ・オン・ザ・  
サイド』(95年)だった。ニューヨ  
ークの売れないクラブ歌手ジェー  
ン(ウービー・ゴールドバーグ)  
は、新天地を目指してロサンゼル  
スへ行く。交通費を節約するため  
に車で行くことにし、同乗者を募  
集する。それに応じたのがロビン  
(メアリー・ローリーズ・パーカー)  
だ。ジェーンはロビンが、カーペ  
ンターズが好きなこと以外は気に  
入った。こうして、旅が始まる。

二人はそれぞれ、人生のお荷物を  
もっている。そんな二人だが、旅  
の中で傷つき、慰めあい、やがて  
かけがえのない友情を育むようにな  
る。そして、ロビンは、音楽好  
きのジェーンの誕生日に、真っ赤  
な大きなリボンをつけてピアノを  
贈ったのだ。ジェーンはロビンの  
ために、カーペンターズの曲を弾  
くのである。

十九世紀初期のイギリスを舞台  
にした『いつか晴れた日に』でも、

やはり、ピアノが  
贈り物に使われた。  
ピアノを贈った  
のは、ブランドン  
大佐(アラン・リ  
ックマン)。贈られ  
たのは、天真爛漫  
な少女マリアンヌ  
(ケイト・ウィンス  
レット)だ。彼女  
の住む居間にびつ  
たりの、小さいが  
木の色の美しいピ  
アノだ。

マリアンヌは、  
自分の愛した恋人  
に捨てられ、一時は放心状態にな  
り、雨の中を歩き倒れ、流感に冒  
され、生死を彷徨ったのだ。それ  
を助けたのは、ずっと密かに彼女  
に思いを寄せてきたブランドン大  
佐なのである。

マリアンヌの失恋の傷が癒され  
たと思われた頃、大佐は、彼女に、  
自分の思いを託すように、ピアノ



金丸弘美=文  
text by Hiromi Kanamara  
平野恵理子=絵  
illustration by Eriko Hirano



『いつか晴れた日に』の主演女優であり、本作を自ら脚色し、アカデミー最優秀脚色賞を受賞したエマ・トンプソンが先頃来日、記者会見が開かれた。なごやかな雰囲気の中で行われた会見の様子をレポート。



日本には、'90年に東京・グローブ座で行われた『リア王』『夏の夜の夢』の公演のために一度来日したことがあるエマ・トンプソン。再び日本に来られて嬉しいという言葉通り、終始にこやかに、ジョークも数多く飛び出す楽しい会見となった。

「撮影現場では脚本家という立場は脇に置いて、女優として謙虚に演じていたけれど、ほかの出演者が私の書いたセリフを間違えたときは厳しくチェックしたわ」という言葉で、まず会場を沸かせた。なぜ今、ジェーン・オースティンの作品を映画化したのかという質問には「私が選んだんじゃないのよ」と笑いながら前置きをして「でも、これはすごくドラマティックだし、映画で表現して初めて生きる部分のある小説だから良い選択だったわ。今なぜかと言えば、少し前まではオリジナルの良い脚本を書く優れたライターが大勢いたけれど、今は少なくなっているから古典に素材を求める傾向にあるのだと思う」と彼女なりの意見を話してくれた。そして演じるにあたっては、このエリノアという役が早くに父親を亡くしたという点で、自分と共通するものを感じたという。



これまで最も影響を受けた映画は「天井棧敷の人々」だという彼女。「『いつか晴れた日に』『キャリントン』と一時代前のものが続いたので、今度は現代の物語を書いて演じたい」というのが目下の希望だそうだ。

## Emma Thompson Profile

'59年、ロンドン生まれ。'82年に大学卒業後、女優として舞台で活躍。映画デビューは、'89年「彼女がステキな理由」。それ以前にもTVで自分の名を冠したバラエティ番組をもったり、BBC放送のミニシリーズでイギリス・アカデミー協会の主演女優賞を受賞するなど、国内では人気・実力ともに定評があった。ケネス・ブラナー監督・主演の『ヘンリー五世』（'89）、『愛と死の間で』（'91）で世界的に注目される。'92年に、『ハワーズ・エンド』でアカデミー賞主演女優賞を受賞し、名実ともにトップスターとしての地位を確立する。翌年『日の名残り』と『父の祈りを』で再びアカデミー賞にノミネート。その他にも、『ピーターズ・フレンズ』（'92）、『から騒ぎ』（'93）、『ジュニア』（'94）と着実なペースで出演を続け、本作で脚本家としてのキャリアをスタートさせた。

「デイ」と、その義母のジェニングス夫人（エリザベス・スプリングス）の住むバートン・パークの家にマリアンヌの家族が招かれたとき、大佐も呼ばれて、彼女と初めて会った。そのとき、マリアンヌはピアノを弾き、美しい歌声を聞かせた。以来、大佐は彼女の虜になったのだ。大佐にとって、マリアンヌは、大佐のかつて愛し亡くした恋人以来、大佐の心を揺り動かした女性となった。しかし、もう中年であり、慎み深い大佐は、

なかなか彼女に思いを告げられない。

もつとも、大佐の思いとは裏腹に、マリアンヌは、散歩の途中で足をくじいたときに通りがかったウイロビー（グレッグ・ワイズ）に夢中になった。ウイロビーは、詩を口ずさみ、乗馬を愛し、狩りを愛す。マリアンヌの、若いロマンスをくすぐったのだ。

ウイロビーは、マリアンヌに花を贈った。「自然の好きなあなたに、自然の花を。それは野で摘みまし

た」。それは、大佐が温室で大切に育て、彼女に贈った、整った花とは対照的なものだった。若いマリアンヌは、自然の花を贈った若いウイロビーにひかれたのだ。

ウイロビーはマリアンヌをまるで愛しているかのように振る舞い、だがしかし、財産のある別の女性と密かに婚約して、結婚した。

マリアンヌは、裏切られ、一度は絶望の淵を見た思いだった。だが、大佐の贈ったピアノに、改めて、自分を心から慕ってくれた本

当の愛を見つuckerるのである。

美しいイギリスの田園に繰り広げられるロマンスは、まるで四季の移り変わりの色彩に似て、繊細な心の襞を織りなすかのようだ。

『いつか晴れた日に』（米・ソニー）

SENSE AND SENSIBILITY 1666年

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー

出演＝エマ・トンプソン／アラン・リックマン

監督＝アン・リー